

多様な子どもと家庭を支える保育所

〜大原保育園（伊勢原市）

全社協全国保育協議会が実施した保育園実態調査（二〇〇八年、公私一万一千六百五保育所が回答）では、約六割の保育所で障害等の理由で配慮が必要な子どもと、生活面、精神面等で支援が必要な家庭があることが明らかになりました。

今号では、保育所を利用する子どもとその家族の状況、必要な支援の課題について、社会福祉法人大原福祉会大原保育園（伊勢原市）園長の萩原敬三さんと主任保育士にお話を伺いました。

解決されない保育ニーズ

社会経済や少子化の影響で、働き方の見直しによる仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現や、親の就労と子どもの育成の両立と、家庭における子育てを包括的に支援するための次世代育成支援の取り組みが進められています。県全体で保育所入所待機児童数は三千二百四十五人、前年度増加率五二・二％となり、いまだ解消されない保育ニーズがあります（平成二十一年四月現在）。施設整備が喫緊の課題となっている一方で、子どもと、その家族への支援の質も求められています。

支援が必要な子どもと家族

伊勢原市は県のほぼ中央に位置し、人口約十万人、小田急電鉄の利用で都心へは約一時間ほどの立地です。大原保育園は昭和五十三年に設立し、定員百二十名、職員三十五名、地域のニーズに応じ延長保育、緊急・一時保育なども実施しています。

主任保育士は、園を利用する子どもの様子を言います。「親の生活リズムで過ごすために、十分な睡眠時間が取れない子、また、親の通勤に合わせるために、十分な朝食も摂れず、栄養が偏ってしまいう子、離婚などの原因による親の

精神状態が影響し、情緒不安定な状況になる子など、障害などに限らず、丁寧な関わりやさまざまな配慮が必要な子が見られます」

さらに萩原さんは親について、「子育ての協力者がいないため孤立してしまい、子育てに不安な親もいます。一方で、保育料を払っているから、『しつけ』も保育園で行うべきだという、家庭の役割の『代替』施設と考えている親も少なくありません。成長も周囲の子どもと同じようであれば良いと考え、親が子どもをどう育てたいか、どう成長してほしいかなど、思いを聞くことも難しくなっている。子どもの成長に大切な時期に、支援が必要な『気になる親』の存在があります」と話します。

求められる丁寧な関わり

このような状況に、保育士はどのように関わり、子育てを共有していくのでしょうか。主任保育士は次のように言います。

「子どもの送迎時の会話や、連絡ノートでの伝達が親との関わり

ている場合、成長の過程を共有する機会がないため、園での様子を丁寧に伝え、親と育ちを共有できるように関係作りをしています。

『特に何もなく元気に過ごした』と伝えず、遊びや他の子どもとの接し方、食事の様子など具体的に伝えます。また、他の子どもがけんかをした場合、感情的になる親を理解するよう努めながら、子どもの行動の背景を分かりやすく説明します。子どもの感情や行動を親自身が理解することは子どもの成長を実感すると共に、安心感につながります。一方で親との関係作りについては、限られた時間で、さまざまな親とのコミュニケーション力が求められます。関わりに苦慮した場合でも、悩みを抱え込まないよう、クラス会議や担任会議なども活用し、伝え方・関わり方を学び合います」

関係機関・地域による保育所支援

家庭支援に、保育所の専門性が求められますが、それを支える関係団体の保育所支援が必要と萩原さんは言います。「保育士はロー